

アートのカ 温泉街にも

ロゴマークに観光施設： デザインで未来描く

豊かな自然に囲まれ、湯の香りが漂う新潟市の岩室温泉で、地域住民と武蔵野美術大(東京)の学生が協力し、まちづくりの新たなアイデアを提案する「いわむろの未来創生プロジェクト」が始まった。二〇〇八年度までの三年間で、岩室温泉街の未来像を描く。

(報道部・土田潤)

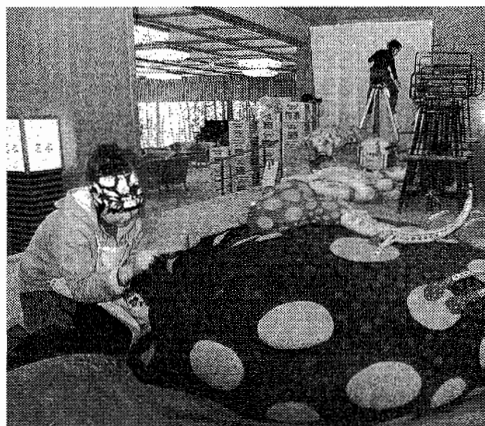
床の間にバイクの模 型、茶室には便器に座る 人の彫刻。昨年春、岩 室の温泉旅館やホテルに 展示する「アートサイ 民との信頼関係が大きな 基盤となる」と語る。 プロジェクトの発端は 地域からの提案だった。 岩室温泉街では、新たな 象徴となる観光複合施設 が〇九年度に完成する。 公園も整備される予定。 いずれも合併設計計画に 盛り込まれている。街の 姿を大きく変える計画実 施に際して、岩室温泉観 光協会が同大にコンセプト づくりへの協力を求め たのがきっかけだ。 同大は「地域の特性に 根差して地域活性化を担 う人材育成につながる」 として、学校全体で取り 組むことにした。文部科 学省の助成制度に申請 したうちにもプロジェクト

岩室 住民と武蔵野美大がプロジェクト



武蔵野美大と岩室温泉 2001年、同大建築学科の学生が旧岩室村の観光振興、まちづくりについて現地を訪れて調査研究してから、交流が始まった。地域間・世代間の交流で活性化しよう、03年に第1回の「アートサイト」を開催。アートと温泉宿の融合をテーマに旅館、ホテルを会場に、学生によるファッションショーと作品展を展開した。05年の第2回は「違和感、それは美しい衝撃」をテーマに開いた。

武蔵野美大とのプロジェクトを進める「いわむろみらい研究会」。学生の意見を取り入れながら、未来像を描いていく。9月28日、新潟市岩室温泉の岩室公会堂



ホテルや旅館を舞台にした武蔵野美大生の作品展「アートサイト岩室温泉」学生らは、準備する。2005年3月、岩室温泉のホテル

やコンセプトを地元に着ちんと伝えることが重要」と話す。また、「ときには学生が地域の人から注意を受けたら、しっかりと対応すること、人間形成の場になる」ともリットも強調する。 岩室温泉の一番の魅力は住民の温かき。〇五年のアートサイトで実行委員を務めた同大基礎デザイン学科三年の伊藤邦恵さん(左)は「散歩しているとき、お茶飲んでいかなければ」と声を掛けてくれた。まるで子供に接するようにもなして「これ」と人懐味あふれる温泉街の印象を語る。 みらい研究会の岡崎昭会長(右)は「このつながりをプロジェクトに生かしたいと考えた。『学生さんとは、子孫のような関係を築いていきたい。深い付き合いがよいものを作ることにつながる』と意気込む。 来年以降も、土産物やキャラクターなどのデザインを提案していく予定。三月には三度目となるアートサイトが開催される。

岡崎さんは力を込めていう。「出来上がった街は私たちが学生さんの夢と血が詰まったものになる」。アートで培った若い感性を推進力に岩室温泉街は新たな一歩を踏み出すことになる。



プロジェクト責任者の宮島慎吾教授は「自分たちが考えたものが形になる可能性の高いプロジェクトは、学生に達成感と充実感を与えてくれる。そのために、調査の結果